集中 OPINION

少子化の加速で危機を迎える大学 どの様に医療人材を育成するのか

冲永 佳史

帝京大学
理事長・学長

少子化が進む日本で、とうとう１年間の出生者数が昨年70万人を切り、68万人となった。予想を超えるスピードで進行する人口減少により、今後は人手不足の深刻化が避けられない。特に医療界では、医師や看護師等の専門職の確保が一層困難になると見込まれている。又、そうした人材を育成する大学等の教育機関も、入学者の減少によって経営の持続性が問われ、存在意義そのものが再定義を迫られている。大学はこれから、どの様に人材養成機関としての責務を果たし、社会の期待に応えていくのか。大学経営の将来像と人材育成のビジョンについて、帝京大学理事長・学長の冲永佳史氏に話を聞いた。

――帝京大学の教育の基本方針についてお聞かせ下さい。

冲永　帝京大学では、「努力をすべての基とし　偏見を排し　幅広い知識を身につけ　国際的視野に立って判断ができ　実学を通して創造力および人間味豊かな　専門性ある人材の養成を目的とする」という建学の精神を掲げています。これは単なる理念に留まらず、教育のあらゆる場面で立ち返るべき基準として明文化したものです。その上で、教育理念に「自分流」、教育指針に「実学」「国際性」「開放性」の三本柱を掲げています。「自分流」とは、自立と自律の精神を持ち、自らの力で考え、行動し、責任を果たせる人間を育成するという意味です。「実学」では、論理的思考力や知識を活用する力を養い、学び続ける姿勢を重視しています。又、「国際性」は不可欠です。他国との関係を築き、世界に開かれた視野を持つ人材が今後ますます求められます。「開放性」は、自らの専門性を深めつつも、多角的な視点から物事を捉える柔軟な思考を指します。複雑な時代だからこそ、知識を構造化し、自分の中で咀嚼しながら他者と交わり、社会の中で応用していく力が必要です。そうした[redacted]の根幹に、「自分流」という考え方が据えられて[redacted]のです。

――1年次に[redacted]京学[redacted]が有ると伺いました。

冲永　専門科[redacted]多様な知識と素養を身に付け[redacted]に2[redacted]講しました。各学部・学科から[redacted]ばれた教員が、それぞれの専門分野を通じて、[redacted]大学で学ぶ事の意義を分かり易く説明するオムニバス形式の授業です。第[redacted]の授業

続きを読むには購読が必要です

詳しくはホームページをご覧下さい